

再生



師友道友の活動を綴る善行伝承誌

分を突きとめ、分をまもる。

森信三先生一語千鈞より

人生二度
なし

不尽

第0097号

2024.9月号

令和六年

NPO法人福岡実践人

再生の題字（森畑彦様提供）は、森信三先生の直筆です。

父親人間学入門

森 信三先生 講述

実践人福岡仁風読書会 第90回 8月3日(土)

場所：仁風庵

(実践人の家の会員であればどなたでも参加できます。)

(参加費無料) 詳細は、世話人へお問い合わせください。

七 健康管理と立腰

―父として・人間として―

健康とは 今日のような時代においては、わたくしたちは天災・人災のいかんをとわず、いつなん時不慮の事故に遭遇するかも知れず、明日の生命さえ保証され難いと言えましょう。そこで、われわれとしては、いつ死んでも悔いのないよう、いつでもそこに人生の一点を呈するような生き方が望ましいと思うのであります。ところで、人間はいつなんどき何事が起こるか分からぬ、という覚悟の必要なことは申すまでもありませんが、しかしせつかく「生」をこの世に享けた以上、お互い出来るだけ永生きして、最後まで充実した生活を全うしたいものであります。そしてそのためには、おたがいに出来るだけ要心して、健康に留意する必要があると思います。それというのも、われわれ人間の生命は、もともと神から与えられたものですから、もし神意に従ってムリをせず、正しい生活態度を守つたら、九十歳とか百歳ということは別として、だれでも八十歳前後までは生きられるのが本当だろうと思います。

さて、健康への方法について考えるまえに、そもそも「健康」とは一体どういう事かという点を、先ず明らかにしておく必要があります。では「健康」とは一体どういうものかと申しますと、それはわれわれ人間の全身心の調和とバランスが、よくとれている状態だと言つてもよいでしょう。

と言うのも、いわゆる体力が強健だということと健康とは、必ずしも同じではないからであります。もつとも身体の強健な人は、がいて健康だとは言えまじょうが、しかし必ずしもそうとは言えないわけで、かの学生時代に運動選手だった人が、後日社会へ出てから、とかく病気がちだという例が意外に多いということ

は、皆さん方もすでにご承知の通りでしょうが、この一事によつても身体の強健と健康とが、必ずしも同じといえないことがお分かりかと思ひます。ではどうしてかと申しますと、一部の運動選手などは、自分の体力を過信して、とかく無理をしやすいからであります。ところが無理をするということは、全身のバランスが破れるということ、結局は健康を損つて病気になるわけであります。同時に反対に、若い頃はそれほど強健ではないどころか、中位か、時にはそれ以下の人も、つねに用心して無理をせず、いつも身・心の全体的な調和とバランスを破らないように注意する人は、案外長生きするものであります。いわゆる長寿の人の中には、意外にそういう人が多いようであります。

立腰と健康 ところで、この全身的な調和とバランスを保つという点で、根本的な一ばん大切なことは「立腰」すなわち「腰骨を立てる」ということとあります。というのも、脊柱というものは、いわば全身の大黒柱ですから、これをつねに真直ぐにしていると、全身の釣合いがよくとれ、バランス感覚が鋭敏になるわけがあります。その大事な脊柱の基盤をなす腰骨を立てることは、心・身の統一・集中・持続力を身につける極秘伝であるのみならず、健康維持の上にも大いに効果のあるわけです。

わたくしは今年で満八十五歳になりましたが、老けこみが人様より多少おそいらしく、こうして日々山積する仕事をいままなお消化せるのは、いつも申すように、十五歳の時から腰骨だけは立てつづけてきたお陰であります。それに九年前に長男を亡くしまして、それ以来、未開放部落に入り、その一隅で独居自炊の生活をつづけておりますが、玄米食と一汁もしくは一菜で、きわめて粗食の生活

を送っております。わたくしの健康維持にとつては、この「立腰」と「粗食」とが欠くことの出来ない三大素因をなしていると思われませんが、もう一つわたくしのつねに心掛けておりますことは、物事を「おつくうがらぬ」ということであります。何事もおつくうがらずに、立居振舞を俊敏にするように心掛け、必要あれば二階の上り降りを目に幾十回するかわからぬほどであります。

なお序ですが、その他にわたくしが実行している健康法の二・三を、次に参考までに申し上げます、

(一) 第一は「半身入浴法」です。これは入浴のさい、乳から上の上半身を、お湯から出しているということです。その際のお湯の温度は、多少は熱目でもよく、また初めに顔を洗わず、乳から上を濡らさず、じつと下半身を温めるのであります。そして後では外で全身を洗い、その後の入浴では肩までお湯に全身をつけることは申すまでもありません。(但し、なるべく短時間で上るようにするので)この「半身入浴法」は、とくに下半身をよく温め、全身の血行を整える上で大へん効果があります。

(二) 次には「無枕安眠法」ですが、これは文字通り夜寝るとき枕を用いないということです。それというのも、われわれ人間の頭は、体重の1/3ほども重さがあります。それを枕をいたしますと、枕の高さに応じて頭の重量の何分の一かが、背骨の第十三骨から第十五骨の間にその重みが伝わり、そして睡眠中ずつとその部分に重みがかかりますので、自然に背中その部分——これを昔から「けんびき」と呼んでいます——が凝るわけです。ところが枕をしなれば、頭の重量は全部地球に吸いとられますから、さすがのけんびきも全然凝らなくなるのであります。

(三) 第三は飯菜別食法。これは分かりやすく申すと、ご飯とお菜を口の中で一しよにしないように、一口ずつ別々に食べるという食べ方でありまして、この食べ方を実行しますと、どんなに胃の悪い人でも、しだいに胃の悪いから救われるのであります。というのも、われわれ人間ののどは、お菜かご飯か、どちらか一

方だけですと、十分に嚙まないと、のどの万人が見張りをしているなかなか通しません。ご飯とお菜を一しよくたんに口の中へ入れますと、のどの番人はもはや見張りを止めますから、咀嚼不十分なままでも平気でのどを通るのであり、そしてこれが胃の悪くなる根本原因であります。

以上の三つは、わたくしが多年実行している健康法について簡単に述べたわけですが、健康法としてはこれら以外にも色々あるわけで、要は、自分の体に合った健康法を突き止めて、生涯それを実行するのが大切だと思ひます。

自己防衛策 ところで今日、ガンによる死亡率が原因の第一位を占めるほど、ガンの脅威を感じる時世ですが、ガンという病気は一種の総合的な文明病であると考えざるを得ません。ですからその原因はいろいろと論ぜられるわけで、食品公害もその重要な一つと数えられると思ひます。一時注目的として騒がれた公害問題も今は鳴りをひそめておりますが、保存食品の中の着色剤・防腐剤、それに工場の廃液による魚類の薬害含有、それに農薬や洗剤の悪影響灯、今なお規制の網の眼をくぐつて公害食品がまかり通っている現状ではないでしょうか。

思えばこういう怖るべき時代に、何を食べたらいかという事は、実に重大な問題ですが、わたくしとして申したいことは、(一)玄米食に切り換えること(二)なるべく植物性の蛋白質のものを摂ること、(三)できるだけ白砂糖を減らすということであります。このように、今日の時代においては、われわれ各自が、食品に対する自己防衛策を打ちたてて、これに対処するより他ないと言わざるを得ないようであります。

時を守り
場を清め
礼を正す
不尽

第四章 明日のためにできること

百年先からいまを見る

現代・未来を見極める難しさ



情報化の進展によって、私たちは過去の事柄について詳しく知ることができるようになりました。その時代に秘密とされ、闇に葬られた「こと」も、真相が白日の下に晒されてしまいます。そしてその「こと」を評価したり批判する「こと」もできるのです。国家機密でさえその例外ではありません。

しかし、いま起きている事柄のすべてを、過去の「こと」を知ると同じように正しく知り、誤りのない判断が下せる人は皆無でありましょう。いまの「こと」さえ難しいのですから、遠い未来の「こと」について見極めることは至難の業です。いくら学問が進み、科学が発達してもです。むしろ、学問や科学が進むほど難しくなると思います。

人に対する評価も同じで、過去の人を正しく評価することはできても、現代の人を正しく評価することは不可能です。昔、奇人と眩された人で、後世になって先覚者、偉人と称される人がいる一方で、その時代に英雄ともてはやされた人物が、後世になって悪人のレッテルを貼られる例は少なくありません。

ヒトラーやスターリンは、当時、国内だけでなく海外からも熱烈な支

持を得ていたはずですが、いまは国民からも忌まわしい人間として嫌われる存在となりました。

どのような未来でありたいか

「このようにいまと未来の出来事を正しく予測したり、現代の人物を正しく評価する」とは不可能であっても、どのような未来でありたいかを明確にし、姿をはっきりと描くことは可能です。また、期待する理想的な人物像を描くことも許されます。

百年後の二〇二〇八年に、どのような国家でありたいかを明確に思い描くことはできるのです。そして、理想の国である二〇二〇八年からすれば過去である二〇〇八年を分析すれば、いま考えている「こと」や行っている「こと」が正しいかどうか、はつきりと見えてきます。

いま正しいと信じてやっている「こと」をそのまま続けていって、二〇二〇八年にいまよりもよい国家になれるかどうかを真剣に考える必要があります。

人々は皆、豊かな暮らしを求めています。豊かな暮らしに豊富な物質は欠かせませんが、安全・安心は物質以上に大切なものであるはず。

日本からはいま、豊かな暮らしを支える安全・安心が失われてしまいました。安全と安心を保つために、国も巨額の費用をかけていますが、個人が多くの費用をかけながら、それでもなお、安全と安心を確保することがかなわなくなりました。日本人が物質的な豊かさを手にする方法・手段に誤りがあったために、代償として安全と安心を失ったといえましょう。

日本一きれいな博多駅・福岡の街に！

第 369 回

博多駅 早朝清掃

毎月 **8** 日 午前6時15分～

【第一回】平成5年12月8日開催

福岡実践人・JR九州博多駅
精華女子高等学校・福岡掃除に学ぶ会

 ハウスメイト



第369回 博多駅早朝清掃

小学生も進行役に！！

8月8日(木曜日)

51名参加



第369回、精華女子高校の学生さん夏休みで登校日でもないのに、掃除の為だけに参加してくれました。県外からも数名、日本を美しくする会のT会長さんもサプライズ参加してくださいました。感謝 けさえもん 拝



体操を指導して下さるOKさん

2024/08/08



初参加のお二人の挨拶

2024/08/08



お元気様～のOさん

2024/08/08



日本を美しくする会T会長

2024/08/08



今回も立派な進行係をありがとう！



2024/08/08

お掃除後の感想発表



2024/08/08

～古き良き時代の日本再生～

とんぼろ

Instagram



@RAKUNOUJIN1962

=== 心を耕し、生を拓く ===



長目の浜のゴミの現状調査を、
8月16日海岸線の約半分2kmを
行いました。

2024/08/16



後援



令和6年度「とんぼろ海掃隊年次大会」感想文まとめ (31名)

7月13日から15日までの三日間、甕島に滞在していただき長目の浜海岸清掃を行っていただきました。おかげさまで、悪天候の合間を縫って予定通りの全日程で達成することが出来ました。この活動に島外から参加いただいた道友の皆さんに体験した感想を①～④の項目について感想をいただきました。

- ①長目の浜の海岸に下りたって、あの漂着ごみを見ての第一印象
- ②実際に漂着ごみを拾って頂いて感じられたこと、気づかれたこと
- ③今後におけるごみ拾いの対策やアイデアなど
- ④その他何でも

31名の道友より頂いた感想を、道友ISさんに纏めていただきましたのでご紹介いたします。

とんぼろ海掃隊 年次大会世話人：富吉袈裟右衛門

①長目の浜の漂着ゴミを見た第一印象

- ・漂着ごみを見ての第一印象は、「落ちてる」のではなく「折り重なっている！」という衝撃でした。地層みたいになっていて、私たちが触ったのはほんの表面上のものです。
- ・現場に足を踏み込むと、災害でも起きたのではと錯覚しました。
- ・ビーチリゾート地の海岸とは全く違って、漂着ごみの多さに驚かされました。
- ・「上から眺めると綺麗だけど海岸にはごみがある」というイメージでしたが、展望台や車で移動中の道路から見てもかなりのゴミが見えました。
- ・途方もないごみの量に仰天。プラスチックやビニールなど分解されにくいごみを目の当たりにして、便利さと楽を追究し、自らが住む環境を破壊していることに気づかない人間の愚かさ、傲慢を感じました。
- ・ごみの多さに驚いたというより足がすくみました。人間の手では拾いきれないのでは？
- ・これを美しい海岸に戻すのは不可能なのではないか。人間が地球を壊していく始まりがここにある。自然に戻らないものを生み出すのは人間だけ。
- ・人の手が入らないとここまで酷くなるということを実感しました。また、目に見える部分だけでもこのような状態なので、目に見えない部分はもっとひどい状況になっているだろうと想像がつかしました。ほかの国と海でつながっていることを強く感じました。
- ・ごみというより不法投棄物の印象が強かった。
- ・海岸線は、定期的に人が手入れをすることで景観が維持され活用されているのだと、初めて意識しました。

②実際にゴミを拾って感じたこと、気づいたこと

- ・経済発展の裏側で積み重ねてきた文明ごみです。
- ・漁船の浮き輪、網等々、産業廃棄物の多いのには無力さを感じました。
- ・漁具が多いなあという印象でした。どこから流れて来たのだろうか？これは知っていて捨てたものなのか、台風や災害で流れてしまったのか、ごみの経緯が気になりました。
- ・そんなつもりではなかったのに受け取る側にはごみ、即ち余計なこととして映ってしまう…日常生活の中でも多々あるよなって思いました。ごみにも言いたいことはある！私は子供達を見ていて原因には必ず理由や要因があると思っています。ごみだけを見るのではなくごみの背景に何があるのかを考えたいと思いました。
- ・私は黙々とごみを拾いながら、「あなたはどこから来たんだろう？」「どんな旅を経てここまでたどり着いたんだろう」「現役の時どんな形で使われてたんだろう」などと拾ったものに対して自分の中で問いかけていました。「ごみはその国の文化の象徴」と森信三先生のお言葉があります。「海のごみは地球、人類の文化の象徴」と感じました。
- ・海で生きている漁師たちの漁船からのごみ。世界と繋がっていることが感じられる海外からのごみ。プラスチックが少しずつ小さくなっていく様子が分かるプラごみ。ビンや金属ごみは海底に沈んでいるのだろう、その量は…。
- ・船舶からの海洋プラスチックごみ問題には、世界共通の規律を厳守する必要性を感じます。
- ・自然浄化できない物が多い。特に、硬化プラスチックよりもペットボトルが多い。
- ・異臭がしたのに驚きました。これまでに何度か海岸清掃をしたことはありますが、臭いはありませんでした。余程ごみの量が多いか、長年放置されてきたためかと思います。
- ・岩場と草の茂みに埋もれたごみは、人力では完全に回収出来ない。毎日弛まなく打ち上げられるごみを清掃するには無理がある。波高く岩多く砂浜狭くごみ多く、しかし海そのものは美しかった。
- ・逐次、分別の判断が求められるごみ拾いです。「びん、缶、ペット」「産業廃棄物」「不燃ごみ」「一般ごみ」と、拾うごみ毎にグルーピングしたり、今回のように一種類に特化すれば、より効率よく進められると思います。
- ・発泡スチロール、プラスチックから、マイクロプラスチックが形成される過程を見ているようでした。魚介類がそれらを食べて、その魚介類を人間が食べて摂取しています。自然の元の状態に戻すように、世界中が力を合わせて取り組むべき共通課題です。
- ・大きな石が多くて足場が悪い。ごみが石の隙間の中に入り込んで取りにくい。
- ・足場が悪いことや、一般道まで人間がごみを持って移動しなければならないなど、ごみの回収が難しい環境でした。国立公園に指定されているため、道路を作れないと聞きました。ごみの回収は責務なので、環境に配慮しつつ大量に回収できる仕組みが必要です。
- ・流木の活用ができればよいなと思いました。
- ・この美しい地球を守る為に、ごみを捨てる人を減らす教育が必要だと感じました。
- ・ペットボトル、サンダル、洗剤の容器などが多いことに、考えさせられました。一人でも多くの人達にこの現状を知ってもらい、ゴミを拾う、そしてゴミを捨てないよう呼びかけねばならないと思いました。



③今後のごみ拾いの対策やアイデア

- ・大きなごみの回収方法と、局所的な小さなごみの回収方法を確立すべきです。
- ・足場の悪さが大きな足かせです。海岸への入口付近からごみや石を除き、まずは人が通れる幅の道を作り、海岸沿いを進んでいくことから始めてはどうかと思います。
- ・運搬用トラックが入れるようになると劇的にごみ拾いが捗ります。
- ・浜の植物の帯に沿って幅3メートルくらいのコンクリートの「遊歩道」兼「運搬用道路」を整備すれば、重機や運搬トラックが入れて、機械を使った掃除をすることができます。また国定公園の遊歩道として、①人がくつろげるベンチの設置、②ランニング・散歩用の距離表示、③センターラインの設置も大切だと思います
- ・重機を使って掃除ができるようになったとしても、環境に配慮ができる心遣いが必要。行政には予算と許可だけ願います。
- ・大雨、台風の後には、県や役所が重機で流木等を回収すべきです。国定公園だから流木を触ることができないという理由はおかしい。人海戦術で流木の回収は不可能です。
- ・流木を浜辺で燃やす事は出来ないのですか？
- ・分別収集を目的とした大会の開催を提案する。ペットボトル部門・ブイ部門・靴スリッパ部門などを用意して競わせる。大会の表彰式で、流木を集めてキャンプファイヤーのように燃やす。
- ・ドローンを使ってごみ回収する。或るいはドローンで撮影して、ごみをアピールする。
- ・海側からごみ回収が出来るように考える。ベルトコンベアの発想で船に積む。海岸沿いに移動させる。(愛媛県で実証済み)
- ・甌島通貨を発行する。拾ったごみを甌島通貨に換える。リサイクルなど勉強会に参加すると、通貨を貰える。労働を通貨に変えることで、子供からお年寄りまで活躍できる。
- ・海がある限り続いていく問題ですから、ごみを拾うとポイント制で甌島で使える通貨にする。
- ・海岸ごみを拾うと重量に応じて減税される制度を創設して、海岸ごみ納税制度を全国に広げる。
- ・細かな発泡スチロールが目につきました。一か所で範囲を絞って、石に埋まっている発泡スチロールなど細かなごみを徹底して拾う、という掃除の方法もよいと思いました。
- ・発砲スチロールは産業廃棄物扱いです。業者さんによっては高額な費用を請求されます。しかし発砲スチロール協会によるとリサイクル率が非常に良い材料だそうです。
- ・行政、メディアの力を借りて、ごみ拾いプロジェクトを立ち上げる。参加者に、特典としてフェリー代金の軽減等を考える。
- ・島の行政と話し合う。そして自衛隊や人力を借りる。地元愛を持つ団体とも話し合うべきだと思います。
- ・有志で、倫理的活動が自然に実践できる団体を結成する。実態を受け止めて、現状把握・分析をして、草木など自然に戻す活動、重機を使った活動(行政・企業・有志の支援要)の対策を取る。2回/月程度の清掃活動をしながら、定期的にイベントを開催して、行政・企業・島民・島外の方の協力を得る。
- ・ごみを仕分けしながら掃除するのは並大抵のことではありません。産業廃棄物、一般廃棄物共に、「これは拾わない」「これは拾う」の区別なしに拾うようにすれば、掃除前と掃除後の違いが分かります。やり方には検討が必要ですが、あの尋常ではない量のごみは、回数と人数を増やさない限り、このまま積みもっていきます。
- ・甌島で起きている環境実態を継続的に学術調査して、SDGsの「環境保全」として「何が問題か」を明確にして、その問題を島内外で意識し続けることが重要だと思います。

④その他

- ・島民の方、特に90代の方がごみを拾われていることに感動しました。
- ・鳥ノ巣山展望所に群生している鹿の子百合は見事でした。
- ・「トンボロ海掃隊年次大会」を毎年開催して下さい。毎年参加させていただきます。
- ・現地へのアクセス、交通費、時間の捻出が大変。最低2泊3日かかる。甕島で家族とゆっくり民宿に泊まって、海水浴、浜焼きバーベキュー、山登り、ジビエ料理など体験して、少しでも海岸のごみ拾いという形が良い。
- ・聴くのと見るのとは違います。島の人たちは物静かですが、島をよくしようという思いが伝わってきました。現地で体験することは本当に良いことだと思います。
- ・富士山のごみが一気になくなった事例があります。長目の浜でも100人、200人規模のイベントを開催することを思い描いています。まずは、島外の人がゴミを拾いに來る実績を積み重ねていくことです。幕末に薩摩学生は、欧米諸国の姿を見て、日本国内で争っている場合でないと視野を広げました。島内外の方が一体となって、そこに志が高い若者たちを巻き込んでいけたら良いと思います。
- ・ごみの山と言われた富士山も、掃除に7000人集まるようになって綺麗になり、ゴミを持ち帰ることが登山スタイルにまでなりました。想像を絶する量のゴミがあったから、また野口健さんの拾い続ける姿があったから、叶ったことです。・海岸清掃のモデルケースとしたい。長目の浜再生資金として寄付を募る。ボランティア清掃活動の聖地として、イベントを企画して全国から参加を募る。
- ・今回の大会のように島外から人が集まれば、行政や島民の人達も関心を持って参加してくれるのではないのでしょうか。甕島に來た人達が活動を発信すれば、より参加者が増えるのではないのでしょうか。
- ・2学期の授業では、子供たちと「海洋ごみ」「海岸清掃」について学習したいと思っています。
- ・この活動に、小・中学生を巻き込むと良いと思います。
- ・日本の防衛の最前線の島だということ強く感じました。有事の時でも手を出せない、世界自然遺産の島にしたいですね。・日本が誇る国定公園というにはあまりにお粗末な状態であり、地域住民にとってはお荷物でしかないと感じました。
- ・こういう現状があることを知ることが出来て良かったです。服装を独特のものにして、お掃除をしている姿をSNSで発信してはどうでしょうか。美しい鹿の子百合と共に、社会問題としてPRすると人が集まるのではないかと思います。
- ・海外から流れる着いたごみをSNS等で発信する。分別すれば資源になることを丁寧に解説し、ごみを正しく処理する知識と意識を持ってもらえるようになればと思います。
- ・長目の浜の清掃が、甕島の活気と経済的發展につながる活動になってほしい。甕島再生の意義、社会的価値、その思いを全国で共感していただくには、行政の理解や応援が必須です。甕島の自然の価値（貝池・なまこ池・鹿の子ユリ、キビナゴ、トンボロ地形等）を長目の浜清掃の象徴として伝えていきたいです。
- ・甕島には、島の声を反映する政治家はいるのでしょうか？海上自衛隊と連携してごみ拾いをする。新たに焼却所を建設して海岸ごみを持ち込む。その熱を活用した温泉施設を併設する。ごみ拾いに参加した観光客には温泉施設利用料を免除する。空き家を活用して、移住者への助成金を考える。
- ・海岸ごみの漁具を再利用したり、リサイクル品として販売などができないでしょうか。
- ・簡単に参加できる日帰り掃除ツアーを提案します。薩摩川内港8:50～里港9:40、10:30掃除開始～12:30掃除終了、13:00昼食及び観光、16:30里港～17:20薩摩川内港。行政と島民、学校関係の協力なしではなし得ないプロジェクトです。国定公園に指定されているのですから行政は動くでしょう！
- ・甕島に來た人が捨てたごみではないけれど、辿っていけば人間の出した漂流ごみ。「甕島に來れば、意識と行動が変わる」を、SNS・ドキュメンタリー映画を作って広報する。また、学生を巻き込んで「甕島海洋ゴミ研究所」を設立。環境学習の現場として、子供達、学校に活用してもらいます。マイクロプラスチックができる過程を学習できます。ごみを拾う習慣を身につけることができます。
- ・「日本を美しくする会」として、海洋ごみ大会と銘打った全国大会を甕島で開催する。
- ・石巻での被災地支援のときは、2泊3日の日程で入れ替わり立ち替わり支援を継続しました。そのような形を取れないかと思っています。
- ・海外に甕島の観光と現状を宣伝し、ごみ拾いツアーとして世界に発信する。国内では甕島での臨海学校を提案し、学校教育の一環として環境問題を学び、ごみ拾いを体験する。



| | 9月 | | | | | | 10月 | | | | | 11月 | | | | |
|-------|--------------|----------------|---------------|---------------|-------------|-----------------|----------------|--------------|---------------|---------------|----------------|--------------|---------------|---------------|---------------|-------|
| 日 | 1 | 7 | 8 | 14 | 20 | 28 | 5 | 6 | 8 | 12 | 2 | 3 | 8 | 16 | 23 | 24 |
| 曜 | 日 | 土 | 日 | 土 | 金 | 土 | 土 | 日 | 火 | 土 | 土 | 日 | 金 | 土 | 土 | 日 |
| 行事活動名 | 戒壇院早朝作務 第15回 | 福岡空港ミリオン清掃 76回 | 博多駅早朝清掃 第370回 | 長目の浜海岸清掃 第20回 | 東京・お掃除・楽農交流 | 筑豊掃除に学ぶ会 200回記念 | 福岡空港ミリオン清掃 77回 | 戒壇院早朝作務 第16回 | 博多駅早朝清掃 第371回 | 長目の浜海岸清掃 第21回 | 福岡空港ミリオン清掃 78回 | 戒壇院早朝作務 第17回 | 博多駅早朝清掃 第371回 | 長目の浜海岸清掃 第22回 | 福岡掃除に学ぶ会 年次大会 | |
| 場所 | 太宰府市戒壇院境内 | 福岡空港周辺 | 博多駅博多口 | 鹿児島県薩摩川内市 | 東京近郊 | のがみ プレジデントホテル | 福岡空港周辺 | 太宰府市戒壇院境内 | 博多駅博多口 | 鹿児島県薩摩川内市 | 福岡空港周辺 | 太宰府市戒壇院境内 | 博多駅博多口 | 鹿児島県薩摩川内市 | アクロス福岡 | 冷泉公園 |
| 開始時刻 | 6時30分 | | 6時15分 | 6時30分 | 20日・22日 | 15時 | | 6時30分 | 6時15分 | 6時30分 | | 6時30分 | 6時15分 | 6時30分 | 13時 | 6時30分 |
| 運営団体 | 太宰府作務に学ぶ会 | 福岡掃除に学ぶ会 | 福岡掃除に学ぶ会 | 楽農人とんぼろ海掃隊 | NPO法人楽農人 | 筑豊掃除に学ぶ会 | 福岡掃除に学ぶ会 | 太宰府作務に学ぶ会 | 福岡掃除に学ぶ会 | 楽農人とんぼろ海掃隊 | 福岡掃除に学ぶ会 | 太宰府作務に学ぶ会 | 福岡掃除に学ぶ会 | 楽農人とんぼろ海掃隊 | 福岡掃除に学ぶ会 | |

上記行事予定表は、富吉の参加する予定を掲載させていただいています。その他、活動しているお掃除実践もごさいますので、事務局にお問い合わせください。

発行人(編集人) 富吉 袈裟右衛門

◇NPO法人福岡実践人 福岡掃除に学ぶ会

Lineグループ運営:福岡清爽クラブ

◇福岡仁風読書会

◇NPO法人楽農人 とんぼろ海掃隊

〈合同事務局〉 〒811-2247

福岡県糟屋郡志免町向ヶ丘2丁目4番3号 ≪仁風庵≫

TEL 092-931-8155 FAX 092-931-8120

E-mail fukusoukai@souji.link (掃除)

こしき仁風庵:鹿児島県薩摩川内市里町里90番地



@F_JISSENJIN



「再生」に掲載している写真は、富吉が撮影・管理しています。必要な方は事務局までご連絡ください。